



令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	大竹市立大竹小学校	校長	野崎 光弘	担当者名	上田屋 陽子
取組事例名		『 あいさつ名人 』			
生徒指導に係る連携体制の確立		カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり	
<b>取組における育てたい資質・能力</b>					
主体性，自主性					
<b>取組のねらい</b>					
<p>模範的な挨拶ができる児童を「あいさつ名人」に認定し，あいさつを推奨する取組は，数年前に発案され，全校的に「あいさつのできる大竹っ子」が定着しつつある。しかし，高学年になると元気にあいさつをする児童が減り，あいさつ名人の数も少なくなることが課題であった。発達段階の違いが要因として挙げられるが，この課題そのものを運営委員会に投げかけ問題解決を図った。</p>					
<b>取組の具体的内容</b>			<b>取組の創意工夫</b>		
<p>高学年にあいさつ名人が少ない理由を運営委員会で話し合った結果，名人バッジのデザインが魅力的ではなく，高学年が胸につけるのに抵抗があることが分かった。そこで，バッジのデザインを児童に募り，リニューアルすることにした。コンテストを行い，既存のバッジに加え4種類が決定した。</p> <p>また，新デザインを校内に周知するために，「あいさつ名人キャンペーン」として，ポスターを作成して貼り出したり，昼の放送をしたりした。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を運営委員会に投げかけ，解決策を児童に考えさせたことで，主体的に取り組むことができた。</li> <li>・児童から出されたアイデアを実現させるために，課題を整理したり，見通しを持たせたりすることで，活動意欲を高めることができた。</li> </ul>		
					
<b>取組の成果と課題</b>					
<p>○6年生のあいさつ名人の数が，昨年度0人に対し今年度は35名（12月現在），1年生は昨年度26人に対して44名と大幅に増えた。</p> <p>○学校評価アンケートにおいては，「学年に合わせたあいさつができる」の評価項目における肯定的評価が児童93%，保護者80.9%，教職員88%であった。ほとんどの児童が，自信をもってあいさつをしていると自覚している。特に，6年生は，自分たちが主体的に活動したことが自信になり，自己肯定感を上げたと思われる。</p> <p>▲今回の取組は，運営委員会の活動にとどまっていたが，他の委員会でも，コロナ禍でできることを考えるなど，自主的，主体的な活動を広げていきたい。</p>					